

令和4年度 第53回 九州地区子ども会育成研究協議会（長崎大会）報告

令和4年11月12日（土）～11月13日（日） 標記大会が長崎市民会館で行われました。8月初めから市子協会員にホームページや9月に個別にメールで参加（参加費・交通費・宿泊費補助）を呼びかけましたが会員からの参加はありませんでしたので、参加者は市子協役員1人、事務局2人、九州地区子ども会推進研究会・推進委員1人（SL）の計4人でした。



《 大会の概要 》

【1日目】

□アトラクションⅠ：桜町小学校1年生による「桜っ子くんち」
で披露する演し物「本踊り」

（※可愛い1年生が正座してあいさつし、正座して
出番を待つ礼儀正しい所作に感動しました。）



□開会行事

- ・開会のことば・主催者あいさつ・来賓祝辞・歓迎あいさつ
- ・各県・指定都市子連会長紹介・表彰式・閉会のことば

□研究協議会（参加者：約270人）（2時間15分～30分）

○大会テーマ『長崎発／／子ども会の復活を目指して！！』
～コロナ禍の今、私たちにできること～



○趣旨

少子化の状況の中、未来の宝である子どもたちを育む貴重な地域の子ども会は、会員数の減少、保護者の理解不足、価値観の多様化、地域の結びつきの希薄化、子ども会自体の魅力不足など、様々な課題が山積みしています。中には、子ども会自体がなくなったり、コロナ禍によりほとんど活動ができなかった子ども会もあります。

一方で、コロナ禍の中でもできることがあるのではないかと、活動の内容や方法を工夫したり、新たな活動を計画したり、地域資源（ひと・もの・こと）の活用を図ったりするなどの取り組みがなされています。

そうした現状を踏まえ、今こそ、子ども会の原点に立ち返り、ウィズコロナ、アフターコロナ時代のこれからの子ども会のあるべき姿について、それぞれの立場から参加者全員で実践報告をし合ったり、意見交換をし合ったりしていきます。

○進め方

- ・3つの部会に分かれて協議していきますが、どの部会も同じ内容で進めていきます。

※各部会6～7人の班で10班以上編成

- ・全員参加型フリップ式ディスカッションで進めていきます。
- ・「コロナ禍で行った子ども会活動」「ウィズコロナの子ども会でできそうな活動」「これから取り組みたい子ども会活動」などについて協議します。
- ・第4部会は九子連推進研究会（テーマ等は同じ。手法は「マンダラート」）



（※市子協からは全部会に1人ずつ参加し（参加報告は別紙）積極的に発言しました。どの部会でも子ども会が直面する課題は本大会テーマの「趣旨」と同じようなものでした。

テーマに沿った協議は時間オーバーするほど熱心に行われました。）

□情報交換会

- ・アトラクションⅡ：「変面ショー」 長崎市出身大学生

※「変面」は約600年の伝承芸。マスクを一瞬のうちに変えて

喜怒哀楽を表現しています。変面の技術は中国では「国家機密」となっていて、秘密を守ることを条件に受け継がれています。

- ・開会のことば・来賓祝辞・来賓紹介・情報交換・万歳三唱・閉会のことば



【2日目】

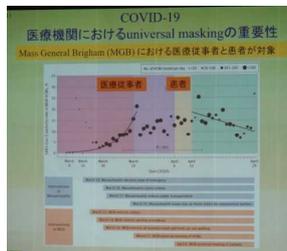
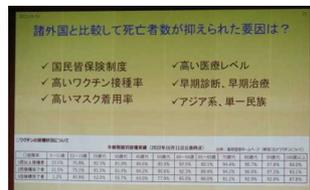
□アトラクションⅢ：諏訪小学校3～6年生 「諏訪つ子くんち
フェスティバル」の「鯨太鼓」

(※威勢のいいかけ声・キビキビした動作、リズムカルな太鼓と竹の打楽器の音。伝統を感じる素晴らしい演し物でした。)

□記念講演 演題 『 新型コロナウイルス感染症 今までと今後～ 』

講師 長崎大学副学長・長崎大学

感染制御教育センター長 泉川 公一 教授



□全体会

○部会報告 (3つの部会のまとめ)

- ・ コロナ禍の3年間は子ども会活動にとってはピンチであったがそれをチャンスに新しい試みを!
- ・ コロナでダメージを受けた。しかし、万全を期せばコロナは怖くない。コロナを理由に「活動をやらない」ところもあったが、やっているところもある。(どの部会もほぼ同じ) これからどうするか。
- ・ 子どものことを考え原点に返って活動を!
- ・ 昔は地域で群れになって遊んでいた。今はそれが無い。その役目が「子ども会」
- ・ 体験活動は知恵を出して! 学校とは違う。学校ではできない(異年齢)集団活動
- ・ 人とのふれ合い。コミュニケーション能力を育てて欲しい。
- ・ 全子連の目標である子どもの真の成長と幸せを願って、「知恵」を結集して活動を進めて欲しい。

○大会宣言

……今こそ、子ども会の原点に立ち返り、ウィズコロナ時代の望ましい子ども会のあるべき姿について参加者全員で協議してまいりました。

今回の協議を機に、子ども会がもつ本来の役割を十分に果たすため、5つの具体的目標を掲げ、その実現に努めることを宣言します。

- 1 「子どもの手による子ども会」を実現し異年齢集団の多様な体験活動を取り入れ、心豊かでたくましい子どもの育成に努めます。
 - 1 子ども会指導者の人材確保とジュニア・リーダー、シニア・リーダーの育成に努めます。
 - 1 行政や学校、関係機関並びに地域団体との連携を深め、地域資源の有効活用とともに安心・安全な環境の確保に努め、子ども会の充実を図ります。
 - 1 子ども会育成組織を充実させるために、すべての地域住民に育成会への参加を呼びかけるように努めます。
 - 1 子ども会に対する地域住民の共通理解を図るために、広報活動の充実を努めます。
- 以上決議します。

□閉会行事

- ・ 開会のことば・開催県あいさつ
- ・ 九州地区子ども会育成連絡協議会大会旗の引き継ぎ
長崎県子連 → 九子連会長 → 熊本県子連 (令和5年11月11日(土)～12日(日))
- ・ 次期開催県あいさつ ・ 閉会のことば